

基本政策Ⅷ 文化財の保護・活用と魅力ある博物館づくりを進める

政策 目標

「川崎市文化財保護活用計画」に基づき、国史跡橘樹官衙遺跡群をはじめとする文化財の保護・活用を推進します。

日本民家園及びかわさき宙と緑の科学館の博物館活動の充実により、各施設の更なる魅力向上を図り、本市の魅力として発信します。

主な課題

- ①本市初の国史跡となった**橘樹官衙遺跡群**（千年伊勢山台遺跡〔橘樹郡家跡〕・影向寺遺跡）については、「国史跡橘樹官衙遺跡群保存活用計画」や「国史跡橘樹官衙遺跡群整備基本計画」に基づき、本市の貴重な宝として将来を見据えた整備を行い、整備完了後は歴史公園として**全国にその魅力・価値を発信し、更なる文化的発展につなげていく**必要があります。また、文化財を市民共通の財産として次世代へ伝える取組を進めるため、自主的な文化財保護・活用に対する支援や子どもたちが文化財に触れる機会を確保し、体験的な学習の場面を創出することが求められています。
- ②**日本民家園及びかわさき宙と緑の科学館**では、新型コロナウイルス感染症の拡大等の影響により、来園・来館が困難な方やこれまで訪れる機会のなかった方等に向けて、SNSなどを活用し、自宅で楽しみながら学べるコンテンツの提供や広報を行うとともに、生田緑地という本市を代表する**地域資源を最大限に活かし、効果的な魅力発信を行う必要**があります。

主な取組成果

- ①「**川崎市文化財保存活用地域計画**」は、川崎市文化財保存活用地域計画策定懇談会を3回開催、川崎市文化財審議会3回、川崎市社会教育委員会議で4回意見聴取しながら、計画（案）を作成し、**市民説明会やパブリックコメントを経て策定**しました。**「国史跡橘樹官衙遺跡群整備基本計画」に基づく整備の推進**については、橘樹官衙遺跡群調査整備委員会の指導・助言を受けつつ、整備基本計画短期計画第1期の**緑地整備及び建物復元工事を実施**しました。また、復元倉庫の立柱イベントに90人、復元工事見学会に350人、茅葺見学会191人、史跡に隣接する橘小学校との連携授業（3年生2回・6年生2回計541人）、史跡めぐり2回で63人、橘樹学講座3回で155人、発掘調査現地見学会1回で86人、野川小学校6年生見学会40人の参加があるとともに、職員を講師として3回派遣し計350人に講義を行い、目標の390人を上回る1,866人の実績をあげ、市民の史跡への理解を促進し、関心を高めることができました。
- ②**日本民家園**では、事業を効率的・効果的に進め、魅力向上を図るため、関係局、市民団体と調整を図りながら**運営基本方針を策定**したほか、コロナ禍で中止していた夜間公開を再開するなど各種行事を実施するとともに、調査報告や資料目録をオンラインで公開するなど公式サイトコンテンツ充実を行いました。かわさき宙と緑の科学館では、プラネタリウムを活用した天文知識の普及啓発の実施について、実施方法や定員を段階的にコロナ禍前に戻しつつ事業を行い、プラネタリウムワークショップ（135人）、各種天体観測会（2,139人）、コンサート（148人）、講演会（235人）を開催しました。また、プラネタリウムの有効活用として一般団体が貸切利用できる「星空自由空間」については、乳幼児が星空を楽しむ場として1回実施しました。

教育改革推進会議における意見内容

- ①**文化財**は歴史の中でぽつんと出てきたわけでは決していない。地形や人の動きの中で文化が花開いて残り、いろいろなつながりがある。多摩丘陵とか**地域の特性や歴史があるので、大きな空間と時間の流れの中でうまく取り上げてほしい**と思った。そうでないと、観光名所みたいに取り上げているだけになってしまう。
- ②東芝、NEC、富士通など川崎にある総合電気メーカーと協力して科学博物館のようなものをつくることで、市民が川崎市の産業を理解し、科学技術に関心を高めることができるように思う。また、このような施設を利用して学校教育を行うことで、生活と密着した教育ができ、子ども達の関心を高めることができると思う。
- ②日本民家園、かわさき宙と緑の科学館、生田緑地はどれもとても魅力的な場所だと思う。市内からの来園者を増加させることも目標になっているかもしれないが、市外からも来園者が増えるように、SNS等で費用をかけずに広報を充実させるとよい。川崎市でしか見られない、経験できない、といったポイントをアピールされると効果的だと思う。

今後の取組の方向性

- ①「**川崎市文化財保存活用地域計画**」に基づき、**文化財の調査・保存・活用事業を推進**します。また、「**国史跡橘樹官衙遺跡群整備基本計画**」に基づく取組を推進していくため、文化庁・調査整備委員会の指導・助言を受けながら、**整備計画の一部見直し等を行います**。さらに、橘樹官衙遺跡群活用事業の参加者数が増加傾向を示していることから、こうした市民の要望・期待に応えるため、引き続き積極的に活用事業を実施していきます。
- ②日本民家園では、運営基本方針を事業の企画、運営等の拠り所として活用し、より魅力的な博物館づくりを進めていくとともに、展示・講座等教育普及活動については、引き続き幅広い年代に対応した企画を実施します。かわさき宙と緑の科学館では、来館者数について、SNSや広報誌を活用した積極的な広報を展開するとともに、リピーターを増やす展示の工夫、魅力あるプラネタリウム番組の製作などにより、増加につなげるほか、体験を通した教育普及の取組について、多様なニーズに対応した自然・天文・科学の3分野に関するワークショップ等を実施します。

指標名	指標の説明		実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(R7年度)
市内の指定・登録等の文化財及び「川崎市地域文化財顕彰制度」に基づく地域文化財の件数	従来の国・県・市の指定・登録の文化財件数に加え、「川崎市地域文化財顕彰制度」に基づいて顕彰した地域文化財の件数を追加 【出典：川崎市教育委員会調べ】		326件 (R2(2020)年度)	382件	411件	－	－	470件 以上
文化財ボランティアが参加した事業日数	文化財ボランティアが参加した文化財活用事業の延べ日数 【出典：川崎市教育委員会調べ】		7日 (R1(2019)年度)	28日	35日	－	－	25日 以上
橘樹官衙遺跡群関連事業への参加者数	橘樹官衙遺跡群の関連事業への参加者数 【出典：川崎市教育委員会調べ】		374人 (R2(2020)年度)	496人	1,866人	－	－	400人 以上
「日本民家園」「かわさき宙と緑の科学館」入園(館)者数	日本民家園の年間入園者数(入園料一般550円(～令和4年度500円)、中学生以下・市内65歳以上無料)及びかわさき宙と緑の科学館の年間入館者数(入館料無料) 【出典：川崎市教育委員会調べ】	民家園	68,267人 (R2(2020)年度)	101,125人	115,373人	－	－	138,000人 以上
		科学館	178,245人 (R2(2020)年度)	249,649人	238,240人	－	－	291,000人 以上
「日本民家園」「かわさき宙と緑の科学館」来園(館)者アンケート満足度	「良かった・満足した」と回答した来園(館)者の割合 【出典：川崎市教育委員会調べ】	民家園	94.0% (R2(2020)年度)	91.6%	88.8%	－	－	97.0% 以上
		科学館	87.6% (R2(2020)年度)	82.0%	91.1%	－	－	90.0% 以上